

商品名

型式

マイクロヒーター MC型

説明

金属表面に巻き付け、間接加熱するためのヒーター（シース細管型ヒーター）

特長

1. フレキシブルでコンパクト！ 施工が簡単です。
2. 曲げ加工が容易で複雑な場所にも取付け可能。
3. ヒーターの温度上昇速度が早く、熱効率が高い。

用途

配管ラインやバルブの保温・加熱・霜取り。
タンク表面からの間接加熱・保温。
金属プレートに挟み込み熱板として・その他長尺物等の加熱。

構造

1. ヒーターの発熱部は、金属細管（ステンレス SUS316）中に高密度に圧縮した高純度の絶縁物（MgO）とともに発熱線（NiCr 線）を特殊製法にて封入しています。
2. リード線は、発熱管の両端（MC1型）または片側（MC2型）のスリーブ内で接続しています。

仕様

1. ヒーター径： MC1型：φ1.0～4.8
MC2型：φ1.6～4.8
2. ヒーター長さ： 標準品は1.7m～8.5m（特注品は要打合せ）
3. 電源： 単相 100V、単相 200V
4. 使用温度： max. 500℃（ヒーター表面）

種類

表1 型番表

型番	電圧	端子	容量	シース外径	ヒーター長
MC1-101	100V	両側	150W	φ1.0	2300 mm
MC1-103			300	1.6	3000
MC1-106			600	2.4	3600
MC1-110			1000	3.2	4000
MC1-115			1500	4.8	4300
MC1-203	200V	両側	300W	φ1.0	4700 mm
MC1-206			600	1.6	6000
MC1-212			1200	2.4	7200
MC1-220			2000	3.2	8300
MC1-230			3000	4.8	8500
MC2-102			100V	片側	200W
MC2-104	400	2.4			1900
MC2-105	500	2.8			2100
MC2-107	700	3.2			2000
MC2-110	1000	4.0			2250
MC2-115	1500	4.8			2100
MC2-204	200V	片側	400W	φ1.6	3400 mm
MC2-207			700	2.4	4400
MC2-210			1000	2.8	4200
MC2-215			1500	3.2	3700
MC2-220			2000	4.0	4500
MC2-230			3000	4.8	4100

表2 耐電圧表

シース外径	φ1.0	φ1.6	φ2.3/2.4	φ2.8	φ3.2	φ4.0	φ4.8
MC1型	500V	600V	700V	—	800V	—	1000V
MC2型	—	500V	600V	700V	700V	800V	900V

写真

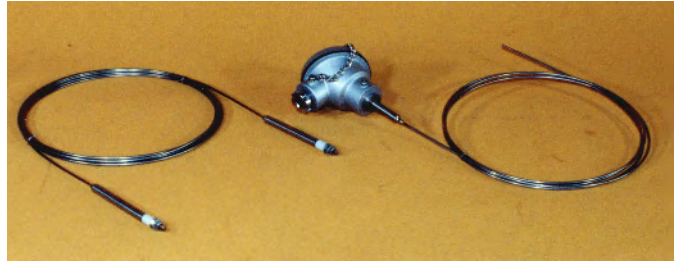


写真1 左 MC1型 / 右 MC2型(防水)

施工例

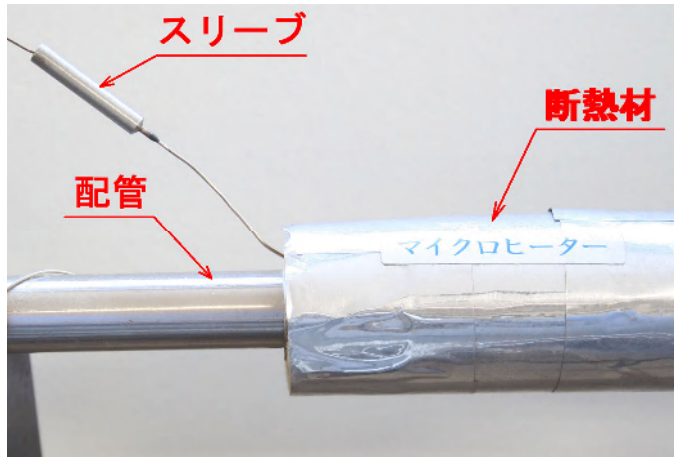
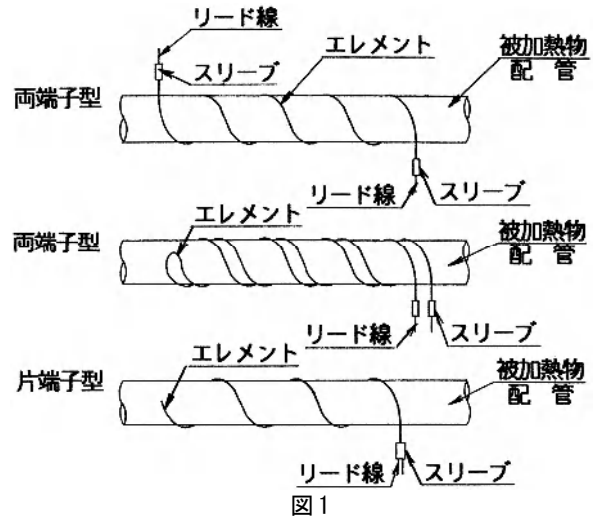
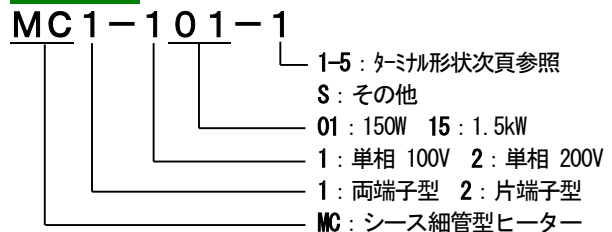


写真2



型番説明

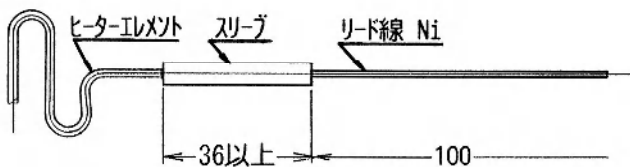


特注品

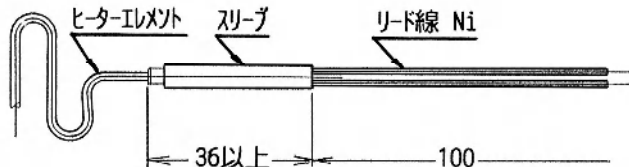
異電圧品、長さ変更、容量変更も製作可能な場合があります。
非発熱部付のマイクロヒーターもあります。

ターミナル形状例

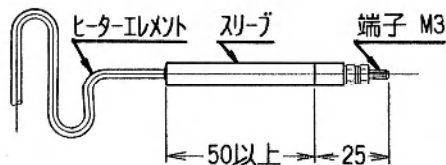
《 1 》 単線出し型 ; ターミナル耐熱温度 100℃
 【標準型】 MC1型



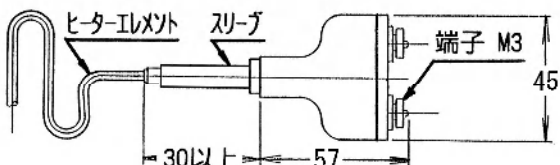
MC2型



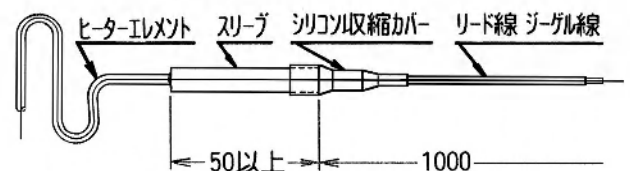
《 2 》 端子型 ; ターミナル耐熱温度 100℃
 MC1型



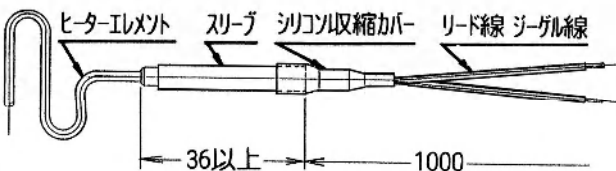
MC2型



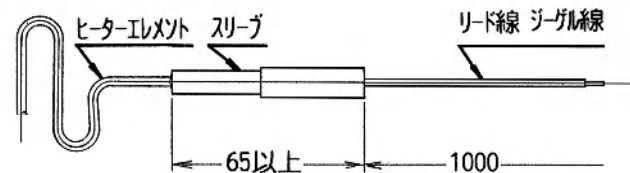
《 3 》 リード出し型 ; ターミナル耐熱温度 100℃
 (シリコン固定)
 MC1型



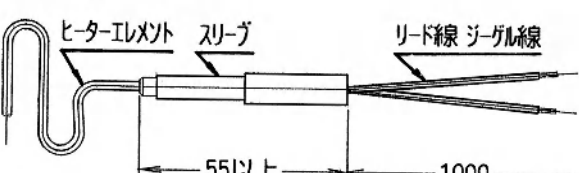
MC2型



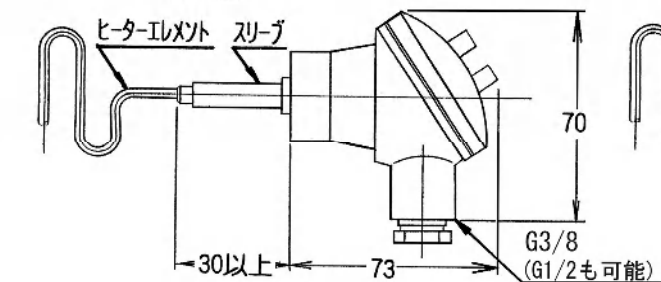
《 4 》 リード出し型 ; ターミナル耐熱温度 100℃
 (エポキシ固定)
 MC1型



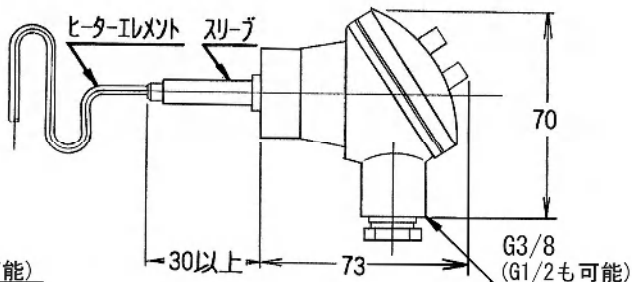
MC2型



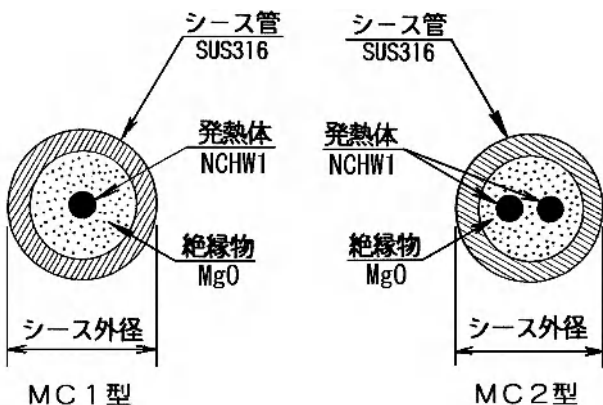
《 5 》 防水型 ; ターミナル耐熱温度 100℃
 MC1型



MC2型



構造



施工時の注意

1. 最小曲げ半径はシース管外径の3倍までです。
2. ヒーターを重ねて巻き付けしないでください。
3. ヒーターが加熱面から浮かないように押さえながら密着させて取付けてください。
4. ターミナル(スリーブ)部が耐熱温度を超えないように施工してください。保温材を使用する場合、スリーブを保温材から空气中に露出するように施工してください。(写真2参照)
5. 配管に巻き付けるときなど、スリーブからの電源取り出し部(リード線や端子ねじ)を曲げたり強く引っ張ったりしないでください。